



CONTENTS

P2 ▶ はじめに

P6 ▶ 第59回体育祭

P9 ▶ ディベートコンテスト(旧弁論大会)

P10 ▶ 第59回高専祭

P12 ▶ 活躍する仲間

P16 ▶ 学校通信

Special Interview

～はじめに～

学びの場としての
国際交流

国際交流室長 宮本 友紀

世界がグローバル化する現代において、国際交流を通じて異なる国や文化を持つ人々が互いに交流し、理解し合うことはますます重要なこととなっています。福井高専でも国際交流プログラムや海外インターンシップ等さまざまな形での国際交流を支援しています。

昨年度は3月のシンガポール研修旅行をはじめ、ベトナム、アメリカ、カナダ、中国など40名近くの学生が海外インターンシップや外国の高等教育機関との研究交流、トビタテJAPAN等学外の奨学金を獲得し奨学生となるなど積極的に海外に飛び立ち、貴重な学びや経験をしました。

異文化での体験は自分自身の視野を広げる絶好の機会でもあります。異なる環境や文化に身を置くことで、自分が今まで当たり前だと思っていた考え方や価値観を見直すきっかけになります。例えば、日本の学校や社会では当然と思っていたルールや習慣が、外国では全く異なることが多くあります。そうした違いに直面することで改めて日本を見直す機会となり、新たな視点から物事を考える力となるでしょう。時には言語や文化の違いから誤解が生じたり、ホームシックになったり、海外での思わぬトラブルなどあるかもしれません。しかし、そうした困難を乗り越えることは問題解決能力や忍耐力を身につける機会となり、また、そのように異国で危機的状況に陥った際、受けた心遣いや親切などは本当に有難く、一生忘れたがたいものです。

また、留学や海外研修は、実際に外国で自分の語学力を試し、さらに修練する機会となります。現地の学生やホームステイ先の家族、空港やレストラン、お店や学校などで働いている人々と英語などの外国語でコミュニケーションを取るようになるため、日本で自分が学んだ英語を実際に使う場面がたくさんあります。日本語が通じない中、どうやって自分の考えを伝え、相手の話を理解するかを工夫しなければなりません。実際に現地に滞在して使う外国語は、単なる言葉のやり取りだけではなく、相手との豊かなコミュニケーションや真摯な異文化理解の手段としての役割も果たしていることに気が付くでしょう。

国際交流は、単なる文化体験ではなく、未来に向けた大きな学びの場です。今年度も福井高専では3月にシンガポール研修と台湾研修を予定しています。また、11月には海外活動報告会で海外インターンシップやトビタテ奨学生など実際に日本を飛び立って貴重な経験をしてきた話を聞く機会を設けています。自分の視野を広げ、語学力を向上させ、異文化理解を深めるために、ぜひ積極的に参加してみてください。



Special Interview

～はじめに～



いつも感謝の心を持ち、 『ありがとう』の一言を 伝えてください

教育後援会長 海道 洋子

本年度教育後援会会長を拝命致しました海道洋子と申します。

会員の皆様、教職員の皆様には、日頃より教育後援会の活動に多大なるご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

福井工業高等専門学校は昭和40年4月に開校し、来年60周年という歴史と伝統があり、本校の教育後援会会長は、光栄で身に余る大役ではございますが、微力ながら精一杯責務を遂行する覚悟でございます。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年1月1日に能登半島地震が発生し、多くの人命が亡くなり、建物の倒壊や津波被害がありました。毎年のように猛暑や豪雨・豪雪などの異常気象による自然災害が発生しています。又、人類は令和2年から4年間、コロナウィルスのパンデミックを経験致しました。このような世の中だからこそ、これからを担う本校学生にお伝えしたいことがあります。それはいつも感謝の心を持ち、『ありがとう』の一言を家族や周りの人そして自分にも言葉で毎日伝えてください。それから、人生は何が起こるかわからない。後悔しないためにも、あなた自身が行動を起こし、何事にも興味を持ってとにかくやってみる。間違ったらやり直す。是非、挑戦してみてください。

高専は専門性が高く、自由な校風で5年間学べる魅力的な学校です。卒業した先輩方には学ばれたことを活かして起業された方、他にも多方面でご活躍されている方

がたくさんいらっしゃいます。これからも地域社会に貢献し、社会の発展を支えるグローバルエンジニアを目指して学業に励んでください。

辛いことも楽しいことも1日1日の積み重ねが明日に繋がります。がんばれ!!心から応援しています。

本校の教職員の皆様、学生に寄り添って個性を生かしたご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

尚、本年度も教育後援会として本校学生に対して学業や校内環境、卒業後の進学や就職などの進路について少しでもサポートが出来ますように、会員の皆様におかれましては何卒、我が子と同じく応援してください。

本校の教職員の皆様によく相談しながら柔軟に対応して参りますので、どうぞ引き続き、ご理解とご協力・ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



Special Interview

～はじめに～

日々の積み重ね

1年担任 藤田 卓郎

最近、やる事がたくさんあって時間が足りないと感じることが増えています。現在、複数の論文執筆に追われていて、日々のスケジュールに追いつけないことがしばしばあります。何から手をつければよいのか分からなくなり、終わらない課題や仕事が積み重なっていく感覚は、多くの人が共感できるのではないのでしょうか。

そのような中で感じるのは、一つずつ確実に物事を進めていく大切さです。焦って全てを一気に終わらせようとすると、かえって混乱してしまうことも多いですが、少しずつでも進めていくと、気づけば大きな進展を実感できることがあります。急がなくても、ひとつひとつこなすことで、最終的には目標にたどり着くものだと思います。

最近では、効率化が強く求められることが多いですが、本当に大事なことは効率的に動くだけではなく、日々の積み重ねではないかと感じています。もちろん、効率良く物事を進めることも重要ですが、何事も少しずつ確実に進めていくことの方が、長い目で見て結果的に大きな成果を生むことが多いように思います。

日々忙しい中でも、少しずつ前に進んでいくことが、きっと大きな力になる。そんな風に思いながら毎日を過ごしています。

今年の夏は暑かった！

2年担任 長水 壽寛

この原稿を10月1日の後期授業開始日に書いています。今年の夏は暑かった。福井の7月の平均最高気温は32.3度、8月は33.8度、9月は32.2度で、3か月間毎日が夏日(*)でした。

また7月31日から8月28日までの29日間連続で真夏日(*)となり、結局のところ今年の7月から9月までの92日間で75日が真夏日でした。うち24日が猛暑日(*)でした。

気象庁のホームページを調べると、1897年の観測開始か

らの毎月の日最高気温の月平均のデータを見ることが出来ます(**)。そこで、福井の7月の日最高気温の月平均値のデータを使って、① 観測開始から、② 過去30年間、③ 過去10年間で、それぞれ散布図を描き、回帰直線を求めてみました。そしてそれぞれの式から100年後(2124年)の7月の最高気温を予測してみると、① では31.0度、② では37.0度、③ では44.3度という結果になった。この結果の解釈はみなさんにお任せしよう。

さて、今年の暑い夏を乗り切った2年生の皆さんは、11月に校外研修が予定されています。3年生では研修旅行、4年生ではインターンシップがあり、今回の校外研修も自分の将来のことを考えるきっかけとして欲しいと思います。また、将来のために今できることが何かを考えてみると良いでしょう。過去・現在・未来はつながっているのですから。

(*) 最高気温が25度以上の日を夏日、30度以上の日を真夏日、35度以上の日を猛暑日という。

(**) ただし1945年の7月、8月、9月のデータはない。

(参考) 気象庁ホームページ、tenki.jp

進路決定のターニングポイント

3年担任 蓑輪 圭祐

人生は「選択」の連続であり、やり直しやリセットがそう簡単には効かないものです。そのなかでも、今後の人生を大きく左右する分岐点のことを、人々はしばしば「ターニングポイント」と呼称しています。

中学校を卒業した生徒のうち、高専に入学する学生の割合はわずか1%ほどだそうです。高専という選択をした皆さんは、すでにターニングポイントを経験していると言えるのかもしれません。そんな皆さんに近い将来訪れるターニングポイントとして、進路決定があります。

私が高専教員を目標に掲げたのは、ちょうど皆さんがいま過ごしている高専3年生のときでした。専門科目や数学の勉強が楽しかったこと、学寮で同級生や後輩に勉強のサポートをした際、教えることにやりがいを感じられたことが進路決定に大きく影響したと思います。

さて、皆さんが「選択」をする際、何を基に決めるのが良い

Special Interview

～はじめに～

と思いますか?家族や友人、私たち教職員に相談してみるのももちろん良いですが、何より大事なのは自身がこれまで得た経験から最善な選択肢を見つけ出す能力を養い、それを実践できるようにすることではないでしょうか。ぜひ積極的に進路に関する情報収集や自己分析を行い、後悔しない選択肢を選べるようにしてほしいと思います。

本科で過ごす期間は折り返し地点を通過しています。残りの学校生活を楽しみながら、大きく成長するための時間も大切にしてください。

チャンネル選択権

4年担任 村中 貴幸

私の幼少期を思い返してみると、家にテレビは一台しかなくて居間にドーンと鎮座していました。一つしかないリモコンは特等席から動かこうとしない親父の傍らに常に置かれていて、ニュースと大相撲と大河ドラマしか映っていませんでした。チャンネルの選択権は親父ががっちり握っていたのです。上記3つの番組に大して興味のなかった私でしたが、それでも幕内力士のしこ名は全部言え、戦国時代の範囲は社会の点数が良かったです。

さて、現代を生きる皆さんはどうでしょう?テレビ離れが叫ばれて久しく、スマホやタブレットを一人一人が持っていて、好きなコンテンツを、好きな時間に、好きなだけ視聴できます。チャンネル選択権は皆さんが持っています。これは「便利になった」、「喜ばしいこと」と歓迎されがちですが、私は少し不安です。一言でいうと視野が広がらない。興味ある動画や記事は見るけど、それ以外は知らない。時事ネタを見逃したけど、あとからショート動画でチェックすればいいや。こんなセリフが聞こえてきます。チャンネル選択権を親父が持っていた我が家で私の視野が広がったか?というと、やや怪しい気もしますが、それでも力士のしこ名を知っていたのは事実です。

4年生の後期は進路選択の重要な時期です。スマホの画面から顔を上げてキャリア支援室の掲示板を見て欲しいです。企業や大学の説明会、進路選択のレクチャー会など、所狭しと各種のポスターが貼ってあります。好きなコンテンツ

を、好きな時間に、好きなだけ視聴できるチャンネル選択権をちょっと手放してみませんか?説明会やセミナーに参加することで、思いがけない知識が得られるかもしれません。私がしこ名を覚えたように……

卒業研究について

5年担任 西城 理志

卒業研究について、今回は書かせていただきます。皆さんは小学校以来、授業で教わったことを学ぶことを十数年続けて来ました。しかし、卒業研究はその逆です。今まで身につけた知識を使って、皆さん自身がまだ“世の中で未解明のこと”を突き詰め、明らかにし、それを社会に伝えるというのが、卒業研究の主旨です。つまり受動的ではなく、能動的な学究が卒業研究です。皆さんには、まずこのパラダイムシフトをしてもらいたいです。

未解明のことを明らかにすることを、「新規性」という言葉で研究者の人々は呼びます。新規性は、どんな小さなものでも構いません。例えば「ゲームコントローラの構造の変遷」といったテーマでも、誰も明らかにしていないことであれば、卒業研究になり得るかもしれません。つまり、自身の興味に従って、好きなことを好きに探求できる可能性があるのが卒業研究です。一部の学生は、教員の指示通りに作業をするというのが卒業研究だと思っているかも知れませんが、それは研究の自由度を狭めています。また研究を真面目に始めると、これまで行ってきた勉強も楽しくなります。なぜなら勉強した内容が、すぐに自身の研究で役立つからです。

現代は社会の余裕が生まれ、若年層は勉強だけを行うことができる環境が出来ました。しかし逆に勉強の価値や喜びを感じづらくなっています。卒業研究という自由な探求を通して、皆さんが学究の価値や喜びを見つけられることを願います。



Special Interview

～第59回体育祭～

変容していく体育祭

学生主事補 小松 貴大

自身が学生時代の体育祭は競技の他に3つのイベント(応援、デコレ、仮装行列)があった。仮装行列は福井高専の歴史を知っている先生方に見れば、黒歴史(?)かも知れないが個人的には今でも形を変えて残っていると感じる。応援・デコレも、名前こそそのまま残っているが、コロナ禍を挟んでだいぶ変化したなと感じている。何よりも一番変わっていると感じたのは競技内容(種目)である。

私の学生時代の体育祭の競技といえば、綱引きや棒倒しや騎馬戦など今からすると中々荒々しい競技内容であった。女子種目でも中央においてある様々物を時には相手ごと自身の陣地へと持ってかえるという競技だった。物言いが発生すると10分20分ぐらい競技とは関係のないところで揉めている北斗の拳さながらの世紀末のような状態もザラでは無い(ジェネレーションギャップで学生さんに伝わらない表現で申し訳ない)。それが私の体育祭のイメージであった。

教員として福井高専に戻ってくると競技は少し丸くなったと感じた。特に本年度は、体育祭実行委員長をはじめ、多くの体育祭実行委員が「学年を跨いだ新しい競技を作る」「応援団が活躍できるような競技を作る」ということで頑張っていてアイデアを出した。また、先生がインカムを持って一緒に走り回るようなこともなくなり、まさに、“A sports festival of students, by the students, for the students.”ですね。



体育祭について

学生会体育長・物質工学科4年 浅尾 空澄

9月24日福井高専グラウンドにて第59回体育祭が行われた。ここ2年ほどは当日に雨が降ることが多かったが、今年は閉会式まで晴天に恵まれ絶好の体育祭日和となった。

体育祭は学生会行事に位置付けられ、学生会が主体となり、中学や高校とは少し違ったような組織構成をしている。そのため、競技やプログラムの順番等の取り決めを自由に決めることができる。今回私たちは“マンネリ化した体育祭にアクセントを入れる”というモチベーションのもと体育祭の準備を行った。例年開催され風物詩ともなっている応援団やデコレ対決、4学年大旗リレーなどの競技は残しつつ、今回は新たな競技をいくつか試みた。高専郵便部と二人三脚、借り物競争などだ。今年から追加した競技でもあるため改善点が多く見られたが、どれも競技として改善をすればより良いものになるに違いない。その点は来年の体育祭実行委員に期待したいと思う。最終的には環境都市工学科がデコレ・応援・競技・総合の最優秀賞をかつさって行った。しかし、仲間とともに分かち合えた気持ちからかどの学科も閉会式が終わってもその熱は冷めることはなかった。学科を超えて交流を行う姿はまさに青春そのもののように見えた。

来年もその先もこの体育祭が続くことが楽しみである。来年でちょうど60回目の体育祭である。その記念すべき体育祭を次の実行委員と紡いでいきたいものだ。



～第59回体育祭～



Special Interview

～第59回体育祭～

体育祭に参加して

電子情報工学科3年 鈴木 蒼汰

今年の体育祭では、三年生で行う種目である「借り物競争」に参加した。私は、参加人数の関係で二回走ることになった。六人で協力して一つの借り物を探すルールがあり、初めはすぐ見つかると思っていたが、一回目のレースで、私のチームが引いた借り物は、「彼氏募集中の人」であった。六人で探し、見つかりはしたものの、本人の同意を得られず、なかなかうまくいかなかった。最終的に、優しいバスケット部の先輩を連れて行きゴールした。他のクラスの借り物で、「歌が上手な人」があり、ゴールしたら歌わされていた。無茶ぶりをされたが、上手に歌っていて、会場を沸かせていた。借り物をすぐには見つけることは出来なかったが、楽しいレース目となった。二レース目での私のチームの借り物は、「文化部の人」であった。三年の電子情報工学科には、五つの文化部を掛け持ちしている人がおり、その人をお願いして、ゴールした。比較的簡単なお題であったので、すぐに見つかった。借り物のお題は、「メガネの人」や、「体育祭実行委員」など、幅広いジャンルのものがあり、他クラスと競うのもあって、楽しめたと感じている。

その後、応援団の発表を見に行った。夏休みから頑張って練習している応援団のダンスは、どの組もかっこよかった。緑組の応援団には、自分のクラスの友達たちが所属していて、一生懸命踊っている姿を見て、凄いなと感動した。各組のデコレは、どの組も凝っていて、来年自分たちで作るのが、楽しみになった。

今年の体育祭は、クラスで協力して団結力を高める借り物競争に参加したり、伝統を受け継いで高いクオリティで発表する応援団を見たりと、楽しく非常に良い体育祭となった。

第59回体育祭成績一覧

順位		1位	2位	3位	4位	5位
部門	技	黄組	赤組	白組	緑組	青組
	応援	黄組	赤組	白組	緑組	青組
デコレ		黄組	赤組 白組		青組	緑組
総合		黄組	赤組	白組	緑組	青組



Special Interview

～ディベートコンテスト(旧弁論大会)～

ディベートコンテストについて

学生主事補 濱住 啓之

昨年からスタートしたディベートコンテスト(旧弁論大会)は、高専祭の初日の10月25日(金)の午前中に、大講義室において開催されました。実施にあたりましては、文化長の橋本さんをはじめ、学生会、文化委員の学生諸氏、審査員や担任の先生方、司会や事前準備などを担われた有志学生、そして弁士の皆様のご協力を頂き、今年も盛況に開催することができました。ご尽力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

今回のディベートコンテストは、昨年の実施方法を継承し、1部2試合ごとの3部構成で実施しました。大講義室の収容人数の関係から観戦者を入れ替える形で行い、本科2、3年生の各クラスの代表弁士が参加しました。「①復縁はありかなしか」「②どちらから生きられないとしたら、昼と夜どちらを生きるか」「③男女の友情は成立するかしないか」「④友達と恋人どちらが大切か」「⑤大人と子供どちらが幸せか」の5つのテーマについて、肯定側、否定側に分れて活発なディベートが行われました。

学生の主張には実際の学生生活に裏付けられたユーモアと説得力があり、会場からは笑い声が絶えないような面白味のあるディベートコンテストになりました。コロナ禍から始まった人数制約の下で、大講義室での開催方法を継承する形ではありましたが、会場の大きさと適度な観客数は、ディベートを聞きとりやすい環境となっていることも、このコンテストが盛り上がった要因の一つであると考えられます。

今後、このディベートコンテストが、より一層、魅力的で活発な活動になっていくことを期待いたします。

令和6年ディベートコンテストについて

文化長・電気電子工学科4年 橋本 涼乃

ディベートコンテストを企画することは、非常にやりがいのある経験でした。参加者の募集から始まり、スケジュールの調整、テーマの選定、そして当日の運営まで様々なタスクがあり、これらを通して、計画力や調整力が身についたと感じました。

今年のディベートコンテストは、多くの人が熱心に取り組み、各チームがテーマについて深く掘り下げ、論理的かつ情熱的な議論を展開する姿は、見ていて非常に感動的でした。

大会の準備や運営には多くの時間と労力がかかりましたが、その分得られた達成感は非常に大きかったです。当日では、予期せぬトラブルもいくつか発生しましたが、みんなで協力して迅速に対応することができました。この経験を通じて、問題解決能力やチームワークの重要性を再認識できました。

このような成功を収めたディベートコンテストを、来年もぜひ開催したいと強く感じています。参加者のみなさんが今年よりもより素晴らしい弁論が行われるよう、新たな挑戦をする場を提供するために、来年も一層充実した内容で実施できるように、次にしっかり引き継いでいきたいです。

さらに、今年の経験を踏まえ、来年はよりテーマの多様性を広げることで、より一層充実したディベートコンテストを開催するべきだと感じました。弁士として参加する学生も観戦する学生も全員がもっと楽しめる形でどのようになるかはわかりませんが、今年よりもよりよくなるようサポートも含めて楽しみだなと感じました。



Special Interview

～第59回高専祭～

高専祭の開催報告とお礼

学生主事補 濱住 啓之

皆様の多大なるご支援の下で開催されてきた高専祭は、今年で通算59回目を迎え、2024年10月25日(金)から10月27日(日)までの3日間、福井高専のキャンパス内で開催されました。今年は新型コロナウイルスが五類に移行して2年目となり、賑やかな高専祭をめざして実行委員の学生が積極的に活動しました。チャンバラ大会、お化け屋敷、高専生の主張、カラオケ大会、ミス・ミスターコンテスト、スマブラ大会、ビンゴ大会などの数多くの企画が催され、パンフレットのページ数は64頁、露店は24店の出店があり、クライマックスのイベントである花火大会が無事に開催されるなど賑やかな高専祭になりました。

また、学生の提案により学科体験コーナーが設けられました。主に小学生や中学生と保護者の方向けに、高専の学生が自ら各学科の実験や卒業研究の内容を紹介するもので、来場者の方は学生の説明に熱心に聞き入っていました。

活動が活発になるとトラブルが懸念されるのですが、今年は昨年の反省点を踏まえ、早い時点から高専祭実行委員の学生と学生主事団の教員が、昨年の反省点等の情報共有を行い、警備部門の体制を強化したりするなどの準備を行ってきた結果、トラブルなく無事に開催できたことを大変嬉しく思います。また、開催期間中の学生の仕事に対する自主性とフットワークの良さに、たいへん感銘を受けた高専祭でもありました。

最後に、高専祭の準備に多大なご協力を頂きました教職員の皆様、種々のイベントを支えて頂きましたスポンサーの皆様、ご来場いただきました学外の皆様、さらに、温かく見守って頂きました地域住民の皆様には厚く御礼申し上げます。



高専祭を実施して

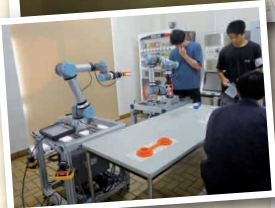
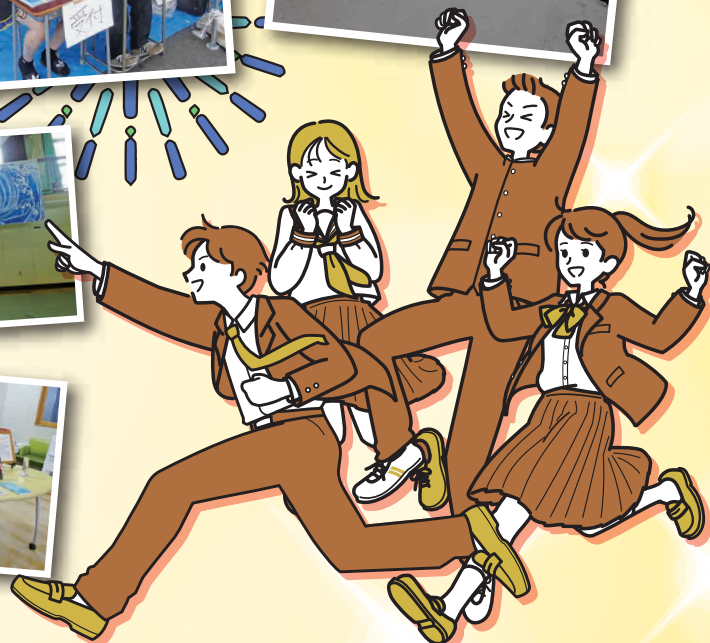
電気電子工学科4年 玉山 怜歩

私は、今年度高専祭実行委員長を務めましたが、前年度までは高専祭に携わることがなかったです。そのため、なにもわからないところからのスタートでした。それにも関わらず、これほど良い高専祭になって成功を収めることができたのは、間違いなく色々な人の助けがあったからです。各部門長や、去年の実行委員長、主事団の方々の支えがあったからです。特に去年の実行委員長の嘉村さんには、高専祭を成功するうえでのノウハウを教えてください、陰から私を支えてくださりました。学生や主事団の先生方だけでなく、音響の企業の方や花火師の方たちからも支えがあったからこそ高専祭成功に繋がったと考えております。私の周りには感謝してもきれない方たちがたくさんいます。

最後に高専祭を実施して、私は周りの方の支えがとても大切だと実感しました。そのため、周りの方への感謝を忘れずに日々生活していくことが大切だと感じました。



～第59回高専祭～



Special Interview

～活躍する仲間～

令和6年度 福井工業高等専門学校 研究奨励一覧

申請者		研究題目	指導教員	交付金額(円)
環境都市工学科2年	中野 巴葵	(建築甲子園) 建築コンテストに出場する作品制作の取り組み	大和 裕也	110,000
環境都市工学科3年	新井 葵々	(防災減災コンテスト) 多機能避難ベストTHE BEST 10 returns ～商品化に向けた新たな挑戦～	芹川 由布子	103,260
物質工学科5年	大西 耀絢	熱中症予防への遺伝学的アプローチ	川村 敏之	80,000
環境システム工学専攻1年	三池 遼香	(高専GIRLS SDGs×Technology Contest) 高専GCON2024に参加する	松野 敏英	144,210
機械工学科4年	石川 翔月	(全国高等専門学校ロボットコンテスト)Aチーム 高専ロボコン出場ロボット「ニシヤマ宅配便」	千徳 英介	150,000
機械工学科3年	角 泰輔	(全国高等専門学校ロボットコンテスト)Bチーム 高専ロボコン2024に出場するロボットの制作	亀山 建太郎	150,000
			合計	737,470

令和5年度 福井工業高等専門学校 研究奨励概要報告

研究プロジェクトや
教育ボランティアへ参加して

物質工学科2年 橋本 らら

私たちは研究奨学金と中谷医工計測技術振興財団のご支援で、生物を用いた色の研究に参加したり、親子科学実験体験を行ったりしました。2023年12月24日には東京で行われた中谷財団成果報告会でポスター発表を行いました。また、私たちが参加した研究は海外の科学雑誌に掲載が予定されています。ご支援賜り誠にありがとうございました。

自分たちと同じ年代の参加者が日頃の研究活動の成果を発表したり、鋭い質疑に対応したりする姿に刺激をもらいました。今回の研究活動やポスター発表を通して得られた貴重な経験や交流を今後に活かしていきたいです。



Special Interview

～活躍する仲間～

プラスティネーションの限界を探る

物質工学科2年 市原 千尋

.....
私達はプラスティネーションの限界を探るという目的で実験を行った。

プラスティネーションとは、生物に含まれる水分や脂肪分を合成樹脂に置き換えて樹脂標本を作ることである。

この実験ではタイのアラとエビ2尾の水分、脂肪分を前もってアセトンに置換し、真空ポンプを使用して更にシリコーンに置き換えた。特にエビの外骨格は薄いため破れることを危惧していたが、この実験ではタイ、エビのいずれも標本化に成功し、元の形を保ったままの保存が可能であるとわかった。

今後は動植物など、魚介類以外の生物の標本化も試みたい。

デザコンに向けた活動

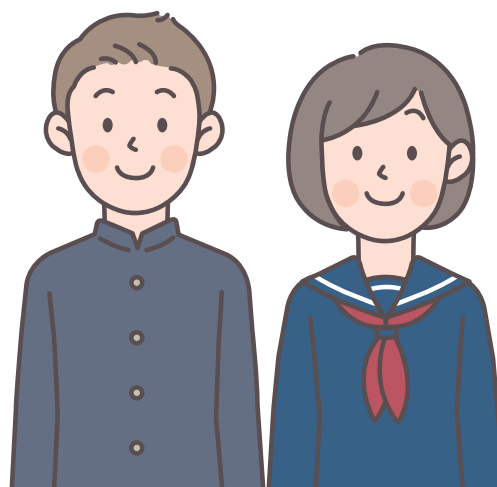
環境都市工学科 卒業生 窪田 多久見

.....
デザコン創造部門に取り組むのは今年で3回目のことでした。今年は同じ学年の異なる学科の学生と協力して提案を作り上げていくという形でテーマに取り組みました。5年生ということもあり、それぞれが編入試験や就職面接でなかなか集まる時間のない中での作業は大変なものでしたが、質の良い提案を作り上げられたと考えています。結果として、予選を通過することはできませんでしたが、この期間は過去3年間の中で最も充実した時間になったと感じています。この経験を大学やその先にも活かしていけるように頑張っていきたいです。

現地調査を通して

環境都市工学科5年 林 智央

.....
私たちは画像測量を用いて河川断面の3Dモデルを作成しました。現地調査では、画像測量班とデータ整理班に分かれて、作業に取り組みました。調査対象の河川は福山市の堂々川、岡山市の足守川と神戸市の都賀川です。現地調査における画像測量はiPad ProのMetascanを用いました。画像測量班は測量結果をSTLフォーマットに変換したものを福井高専のデータ整理班に送信しました。2つの班が同時に作業することで、測量箇所の不足箇所が明らかになり、3Dモデルの作成作業は大幅に省力化できました。なお、以上の成果は2024年9月に開催される日本建築学会全国大会で発表しました。



Special Interview

～活躍する仲間～

高専ロボコン2023の反省

電子情報工学科4年 大瀬 怜牟音

ロボット部では、高専ロボコン2023用のロボットの製作を行いました。今年は、フィールド上の障害物を通過して、コースを周回しながら、吊るされているフルーツに模したボールが入ったネットを回収する競技でした。この競技では、事前に作製したフルーツ獲得用のお助けアイテムを、2周目以降に使用することができます。

Aチームのロボット「FCR-23A」は、障害物の1つであるロープをくぐり抜けるための低い全高と、もう1つの障害物である段差を乗り越えるための3つの車輪を結合した特殊な車輪ユニットが特徴です。しかし、大会本番ではロボットは動作したものの、すべての機能を十分に発揮することはできませんでした。原因は、ロボットの完成が遅く、大会までにロボットの満足な調整や練習が行えなかったことです。近年のロボット部では、毎年同様の課題を抱えており、改善を試みてはいますが未だに解決に至っていません。大会の反省から、ロボットの完成をスピードアップするために、日頃から必要な技術を少しずつ研究するなどして、ロボット製作のためのノウハウの蓄積を継続的に行っています。来年はこの努力を実らせて大会で活躍できるロボットを製作したいです。

高専ロボコン2023に出場するためのロボット製作

機械工学科5年 中川 翔心

今年の高専ロボコンはもぎもぎ!フルーツGOラウンドというテーマの元で、障害物を超え、フルーツにみたてたオブジェクトを収穫する競技でした。

Bチームは蟹千住観音という名で、蟹のハサミにみたてたアームを千住観音のように腕を複数つけたロボットを製作しました。また競技フィールド上には角材とロープの2種類の障害物があり、それらをローラーやキャタピラなど複数の移動機構を用いて移動しながらフルーツを回収しました。しかし本番では本来予定していた動作の一部しか発揮することができず、高得点を獲得することはできませんでした。計画の杜撰さを痛感する大会となりましたが、チームでものづくりをすることの楽しさを改めて実感しました。今年なす事のできなかった全国大会への出場など悔しい点は多々ありますが、今大会を通して得られた改善点を後輩たちと共有しながら、より良い方向へなるよう改善します。



Special Interview

～活躍する仲間～

全員で勝ち取った勝利

テニス部 物質工学科5年 山内 幸紀

私は北海道の苫小牧で行われた第59回全国高専体育大会テニス競技の男子個人戦シングルスで優勝しました。私は5年生であるため今回の全国大会が福井高専の学生として出場する最後の大会でした。また、私にとって初めての全国大会への出場であり緊張しましたが、試合中は相手のコートに一球でも多くのボールを返球しようという思いで挑戦しました。全国大会は、普段と異なる会場と手強い相手に何度も苦戦しましたが、顧問の先生と仲間からのサポートと応援が力になり、2日間の日程を乗り切ることができました。私は、顧問の先生、一緒に練習をした先輩や仲間達、応援に来てくれた家族に感謝しています。私を支えてくれた方々に全国大会での優勝を報告できて嬉しい気持ちです。福井高専のテニス部の後輩達には今後もテニス部を盛り上げてほしいです。



ます。改めて、全国1位の強さをもつチームだと実感できました。個人戦においてもダブルスで優勝できなかったのは悔しかったのですが、今までで1番、2人で楽しくプレーできましたし、シングルスにおいては先生、チームに優勝した姿を見せたいと4年前の大会で負けた時からの強い思いだったので、最後の大会で優勝できて本当に幸せでした。練習に携わってくださった方々や、応援して下さった沢山の方に本当に感謝したいですし、また来年も全国優勝校として頑張りたいです。



全国高専大会水泳競技に参加して

水泳部 電気電子工学科4年 谷口 柊弥

全国高専大会の水泳競技に参加したことは、私にとって大きな経験となりました。普段の練習とは異なる雰囲気の中、全国から集まった選手たちと競い合うことで、自分の実力を試すことができました。練習自体は、月に一度程度しか泳いでいませんでしたが、スタート台に立つととても緊張しました。レースが始まると、これまでの練習の成果を出し切ることを考え、全力で泳ぎました。しかし、体力が足りず後半のスピードが落ちていき、最終的には2位という結果で終わってしまいました。1位との差は0.03秒で、とても悔しく、まだまだ自分に足りない部分があることを痛感しました。この大会を通じて、次の目標が明確になり、より一層努力する決意を新たにしました。全国大会に参加できたことに感謝し、これからも頑張りたいです。



もう一度金メダルをかけた戦いへ

バドミントン部 物質工学科5年 笠松 青夏

体育館に足を踏み入れた際、これが最後の大会なんだと実感しました。去年は銀メダル2つという結果で終わっていたため、この1年間、この日のために試合動画を見たり、自分に足りないものを練習で修正したりと悔しい結果で終わらないようにできることは全てしてきました。1日目は団体戦からスタートし、順調に決勝まで勝ち上がりましたが、決勝の相手は昨年負けたチームでした。そのため昨年の悔しい記憶がよみがえり、とても苦しい試合でした。私が終わったと同時に、隣のコートも終わり悲鳴があがっていたため、負けてしまったのかなと不安な気持ちで一杯でしたが、先輩勝ったよ!という言葉で思わず安心感と嬉しさで泣いてしまいました。決勝に勝ち上がるまでも誰かが勝ち取ってくれるという自信があったからこそ、落ち着いて戦えたと思い

～学校通信～

令和6年度第1回 学生表彰受賞者一覧

校長特別賞

一級建築士合格

環境システム工学専攻2年 | 矢坂 遥

校長賞

4年間(4回)学業成績優秀者

電気電子工学科5年	伊藤 宏基	環境都市工学科5年	小林 洸太
電気電子工学科5年	虎田 康佑	環境都市工学科5年	佐々木 俊亮
電気電子工学科5年	竹下 朔也	環境都市工学科5年	高間 海友
電子情報工学科5年	中尾 悠	環境都市工学科5年	保木 克也
電子情報工学科5年	彦坂 天星		

2023年度関西土木工学交流発表会 優秀学術発表賞

環境システム工学専攻2年 | 田中 こころ



奨励賞

1年間学業成績優秀者

機械工学科5年	明石 光克	環境都市工学科5年	KONGSRI WIRINYA	物質工学科4年	竹下 航平	電子情報工学科3年	梶 京四朗
機械工学科5年	北川 真	機械工学科4年	石川 翔月	物質工学科4年	丹羽 大和	電子情報工学科3年	福嶋 孝太
機械工学科5年	品川 涼	機械工学科4年	大味 修也	物質工学科4年	藤田 耕輔	電子情報工学科3年	南 裕翔
機械工学科5年	高橋 孝太郎	機械工学科4年	前田 煌陽	物質工学科4年	細井 遥和	物質工学科3年	橋本 凜太
電気電子工学科5年	CALVIN LING CHUNG HUNG	機械工学科4年	CHAN DING KHAI	物質工学科4年	松浦 奏登	物質工学科3年	瀧島 友明
電子情報工学科5年	高橋 知也	電気電子工学科4年	木谷 駿允	物質工学科4年	吉川 陽貴	物質工学科3年	藤井 結希
電子情報工学科5年	若月 元太	電気電子工学科4年	齊藤 翼	物質工学科4年	吉田 聡太	環境都市工学科3年	新井 葵々
電子情報工学科5年	辻 大知	電気電子工学科4年	砂原 七生	環境都市工学科4年	齋藤 大雅	環境都市工学科3年	伊藤 颯志
物質工学科5年	池田 葵衣	電気電子工学科4年	MATSUKAWA KEVIN JOSHUA OMANDAM	環境都市工学科4年	佐々木 清和	環境都市工学科3年	丹羽 勇帆
物質工学科5年	内村 勝悟	電気電子工学科4年	宮本 有莉	環境都市工学科4年	清水 丈一郎	環境都市工学科3年	橋本 陽生
物質工学科5年	川畑 開聖	電子情報工学科4年	岡本 篤倉	環境都市工学科4年	杉田 涼香	機械工学科2年	金森 衣乃里
物質工学科5年	河村 勲士	電子情報工学科4年	小川 拓也	環境都市工学科4年	田中 結菜	機械工学科2年	小林 大豊
物質工学科5年	小坂 龍一郎	電子情報工学科4年	片岡 志菜	環境都市工学科4年	谷村 和奏	電気電子工学科2年	荒谷 晃汰
物質工学科5年	伴 駿太	電子情報工学科4年	東 菜々花	環境都市工学科4年	中村 優真	電気電子工学科2年	野村 梨帆
物質工学科5年	細田 真夕	電子情報工学科4年	水野 弘汰	環境都市工学科4年	野尻 唯奈	電子情報工学科2年	恩地 紗衣
物質工学科5年	前田 凪	電子情報工学科4年	水野 弘汰	環境都市工学科4年	松田 岳	電子情報工学科2年	高見 涼平
物質工学科5年	山内 幸紀	電子情報工学科4年	宮本 結生	環境都市工学科4年	三田村 美菜	物質工学科2年	橋本 らら
環境都市工学科5年	大江 康二郎	電子情報工学科4年	渡邊 展匠	環境都市工学科4年	宮下 育三	物質工学科2年	森川 義仁
環境都市工学科5年	小谷 朝日	物質工学科4年	浅尾 空澄	環境都市工学科4年	山崎 更	環境都市工学科2年	金子 彩花
環境都市工学科5年	南北 城	物質工学科4年	有馬 魁兜	環境都市工学科4年	渡邊 駿介	環境都市工学科2年	谷口 三琴
環境都市工学科5年	長谷川 ほのか	物質工学科4年	伊東 汰一	機械工学科3年	鈴木 慧矢	環境都市工学科2年	玉木 湧
環境都市工学科5年	林 智央	物質工学科4年	伊部 心鞠	電気電子工学科3年	堤 虎牙	環境都市工学科2年	中野 紗椰
環境都市工学科5年	室田 晃佑	物質工学科4年	音 羽矢可	電気電子工学科3年	中嶋 蒼	環境都市工学科2年	中野 巴葵
		物質工学科4年	紘谷 聡子	電気電子工学科3年	春田 真穂		

TOEICにおいて成績優秀者

電子情報工学科5年 | 小川 賢仁 | 電子情報工学科4年 | 東 凜太郎 | 電子情報工学科4年 | 高橋 楓哉 | 電子情報工学科4年 | 水野 弘汰

ふくいソフトウェアコンペティション2023 ふくいソフトウェア大賞

電子情報工学科5年 | 山腰 大輝 | 電子情報工学科5年 | 藤野間 奏人 | 電子情報工学科4年 | 中西 奏一郎

第三回高校生まちづくりコンテスト 佳作

環境都市工学科4年 | 田中 結菜 | 環境都市工学科4年 | 渡邊 駿介 | 環境都市工学科4年 | 上島 迦羅

Special Interview

～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が18、文化部が8、同好会が12あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 女子バスケットボール

私たち女子バスケット部は、みんなで仲良く練習をしています。特に大会前には週に3回ほど練習しており、大会に備えて練習に励んでいます。経験問わず募集しています！ぜひお待ちしております！

指導教員 後反 克典、坂元 知里、内藤 岳史



文化部 囲碁・将棋

囲碁将棋部は火曜日と金曜日にコミュニティルームで活動しており、現在部員は13人、主に将棋を指しています。高校生大会や高専機構の大会にも積極的に参加しており、実績も多く残しています。いつも楽しくおしゃべりしながら指しています。

指導教員 山田 哲也、相場 大佑、原口 治、橋本 賢樹



文化部 放送・メディア研究会

私たち放送・メディア研究会では、週1回のラジオ収録を通じて、コミュニケーション力を磨いています。また、学校行事や学外でのイベントの撮影、MC等も積極的に行い、実践的な経験を積んでいます。

指導教員 西 仁司、長水 嘉寛、市村 葉子、後反 克典



同好会 ダンス同好会

私たちダンス同好会は高専祭でのステージに向けて毎週木曜日に練習しています。会員の中には課外活動でもバトルやステージ発表に出ている人もいます。ダンス経験者はもちろん、未経験者の方も興味がありましたら入会をお待ちしています。

指導教員 宮本 友紀



同好会 音鍵研究会

音鍵研究会は今年で10周年を迎える、それなりに歴史のある同好会です。私たちは主に楽曲制作を行っています。また、月に一度E1棟四階の創成教育ラボへ集まり、自分たちで作った作品の発表会をしています。

指導教員 小越 咲子



同好会 珈琲同好会

珈琲同好会はコーヒーを飲みながら、ゆったりと過ごし、先生と会話を通してコーヒーについて知れたり仲良くなれる同好会です。月1～2回開催しています。豆は、地元銘店で調達。コーヒーについて知りたい人や飲める人・飲めない人でも是非来てください！

指導教員 原口 治

その他の部・同好会一覧

体育部門

- 陸上
- 卓球
- 男子バスケットボール
- ラクビー
- サッカー
- 野球
- バレーボール
- バドミントン
- テニス
- ソフトテニス
- 剣道
- ハンドボール
- ソフトボール
- 少林寺拳法
- 水泳
- 合気道
- 軟式野球

文化部門

- 英語
- モダンミュージック
- 吹奏楽
- ロボット
- アマチュア無線研究会
- 建築構造デザイン

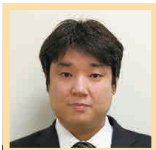
同好会

- 天文
- 茶道
- サイエンスクラブ
- フットサル
- スポーツクライミング
- 折り紙
- プログラミング研究会
- 書道
- 文芸

Special Interview

～学校通信～

本校に着任して



苦手なこと

機械工学科 橋本 賢樹

4月より機械工学科に着任しました。私には苦手なことが2つあります。

私は方向音痴です。ナビがないと車の運転ができません。先日、ベルで普段と別の入口から入ったところ迷子になりました。もし私が校内や市街地の変なところで立ち止まっていたり、キョロキョロしていたりしているところに立ち会いましたら、人助けとお声をかけていただき正解に導いてもらえたらと思います。

私はスマホを上手に操れません。4月までバカバカケータイでしたが、生活が変わり不便なことが増えたので、ついにスマホに変えました。しかし、根本的な概念がわかっていないだけでなく、ボタンがないし、大きいし、重いし、一生慣れる気がしません。コンパクトで堅牢性に優れた金色ケータイにいつでも戻ることができるようデスクに置いて眺めています。珍しいケータイの見学大歓迎ですので、いつでも居室にいらしてください。



言葉は錐のようなもの

電子情報工学科 森田 海

これは偉大な国語教師、大村はまの言葉である。錐(キリ)とは、板に小穴などを開ける道具だ。図工の時間に、いろんなものに穴をあけまくったことが思い出されるのではなからうか。「言葉は錐のようなもの」が頭から離れない。言葉は二つの意味でバワフルだ。ひとつ、言葉は鋭く、道を切り開くツールである。ふたつ、簡単に自分・他者・モノを傷つける可能性があり、慎重に使う必要がある。着任して半年、教える言葉の難しさを感じるばかりである。「なるほど!」と思わせられることもあれば、「なんとなくわかった」で終わることもある。学生の反応から、私もまた学んでいる。プログラミング言語も言葉だ。創作的で論理的なコーディングで信じられないようなアプリが動くこともあれば、全角文字一つで動かなくなることもある。やはり言葉は使って考えて学んでいくものだ。みなさんとともに、言葉を操り、新たな道を切り開いていきたい。



ともに歩もうではないか!

物質工学科 野元 昭宏

昨年までは大阪公立大学(旧大阪府立大学)の工学部に勤めておりました。大阪高専と10年以上、色素製造用の錯体触媒に関する共同研究をしてきたので、大阪高専の学生さんとは、よく一緒に実験しておりました。その他、久留米高専、奈良高専にも知り合いの教員がいて、高専生は非常に多くの実験をしていることを聞いていました。本校のカリキュラムにも多彩な実習、実験が用意され、本当に恵まれた環境だと思っています。諸企業が高専生の採用を強く望むのも大いにうなづけます。

鯖江でスーパーに立ち寄ると、大阪では見られない魚料理がいっぱいあって、今も楽しく買い漁っています。私は小さい頃、親類のいる淡路島によく行っていたこともあり、海や魚が好きで食べることも好きなので、買い物も楽しくしています。

この素晴らしい研究教育環境の中で、ともに学び素晴らしい成果を挙げて行きましょう。



自己紹介

環境都市工学科 津野 佑規

こんにちは!

4月から環境都市工学科で環境系の授業を担当することになりました。

これまでは、福井県内の公立学校で教員をしており、高専と高校の違いを楽しみながら、皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。私の教育方針は、学生一人ひとりの個性を尊重し、自立できるように向上してもらうことです。授業では、皆さんが主体的に取り組めるように、参加型の内容を増やしていくつもりです。

趣味は料理で、最近はエスニック料理にチャレンジしています。好きな食べ物はお寿司で、特にマグロが大好きです。

皆さんが安心して質問や相談ができるような環境を作りたいと思いますので、気軽に声をかけてください。これから、一緒に学び、成長していきましょう。

どうぞよろしくお願いします!



Special Interview

～学校通信～



衝動

一般科目教室 大谷 貞徳

私は昨年度まで栃木県の公立高校に勤めていました。福井県へ来て半年が経ちましたが、この期間はあっという間であったなと感じています。

こちらへ赴任し、授業を行って感じましたのは、どの学生も知的好奇心が高いということです。「国語は苦手なんです。」と話していた学生も、好奇心を持って授業に臨んでいた姿が印象に残っています。そんな皆さんの姿勢に触発されたのか、あれもやってみたいこれもやってみたいという気持ちが溢れてきたのを覚えています。その気持ちのままに突き進んでいたらいつの間にか半年が経っていました。一度思い立ったらとことんまで突き進まずにはいられなくなる、そんな自身の性格が全開であったなと感じています。

これから皆さんとともに「おもしろい」授業を(皆さんを置いていかずに)つくりたいと思っていますので、よろしくお願いします。



よろしくお願いします

学生課長 田中 賢一

4月に福井大学からやって参りました田中です。大学といっても附属病院に長くいましたので、3月までとは一転して学校らしい環境で働くこととなり、若者の活力を身近に感じながら新鮮な気持ちで日々過ごしております。

高専に来て嬉しいことの一つに通勤が短いことがあります。時間に余裕ができたことも嬉しいですが、プライベートでは年間で地球を一周するくらい運転するので少しでも車の寿命を延ばせるかなと期待しています。

皆さんと楽しく仕事ができればと思っていますので、仕事のこと、仕事以外のこと、何でも気軽に話しかけてください。どうぞよろしくお願いします。



常に一步前進

総務課施設係主任 桑島 貴幸

本年度より福井高専に着任しました桑島と申します。以前は県有施設で施設管理、予算管理や企画等の運営に携わってまいりました。勤務先としては近所であったため林道での行き来でしたが、福井高専では鯖江市内を楽しみながら通勤しております。

さて、私の所属する総務課施設係では修繕は元より校舎の新

築、改修等を行うための施設設計や維持管理をメインとし、学生や教職員が快適に安全安心して過ごせる環境を作っていくことです。私は誠実に職務に従事し、目標に向けて前進できるよう努めていきたいと考えておりますので、皆様のご指導お願い申し上げます。



本校に着任して

学生課教務係 水馬 優花

4月1日付けで学生課教務係に着任しました、水馬(みずうま)と申します。3月までは学生として大学に通っていました。

教務係では、賑やかな課長補佐、頼りになる係長、いつも優しく話しかけてくださる係員の方々に支えていただきながら、日々の業務に励んでいます。主にキャリア支援室の業務を担当しているので、就職・進学の面で少しでもお役に立てるよう努めてまいります。

また、鯖江に住むのは初めてですので、おすすめのお店等があれば教えていただけると嬉しいです。これからご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



19年ぶりの母校

教育研究支援センター 土田 浩太

4月に着任しました教育研究支援センター技術職員の土田です。主な職務は、環境都市工学科における測量、コンクリート、環境・衛生、構造工学などの実験実習の支援です。

私は2005年に福井高専環境都市工学科を卒業後、建設会社で道路、河川、構造物補修工事など、様々な土木工事の施工管理に従事してきました。このたび縁があり、19年ぶりに母校に戻るとなりました。学生として5年間を過ごした思い出深い場所、今度は技術職員として働けることに大きな喜びを感じております。この半年間、とても充実した日々を過ごしており、楽しく仕事に取り組んでいます。しかしながら、まだまだ学ぶべきことが多く、日々勉強の必要性を痛感しております。

今後もこの福井高専で学生と共に学び、成長していけるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



令和6年度学校行事写真



新入生歓迎会



新入生オリエンテーション



球技大会



学生表彰



交通講話



舞鶴高専との交歓試合①



舞鶴高専との交歓試合②



ひまわり教室



北陸地区高専体育大会①



北陸地区高専体育大会②



北陸地区高専体育大会③



北信越サッカー体育大会



マナー講座



ロボコン①



ロボコン②

編集後記

そろそろ秋の顔が見え始めました。皆さんの身の回りではいかがでしょうか。私は今回初めて体育祭や高専祭を見させて頂きましたが、準備から片付けまで熱気あふれる皆さんの活動に、ただただ感激しました。青武台だよりでは、皆さんのさまざまな活動の一部しかお伝えすることができず残念なのですが、今後も学校の多くの事柄について発信できればと思っています。在校生は卒業や次の学年に向けていっそう頑張りましょう。(野元)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日:令和6年11月29日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL:0778-62-1111